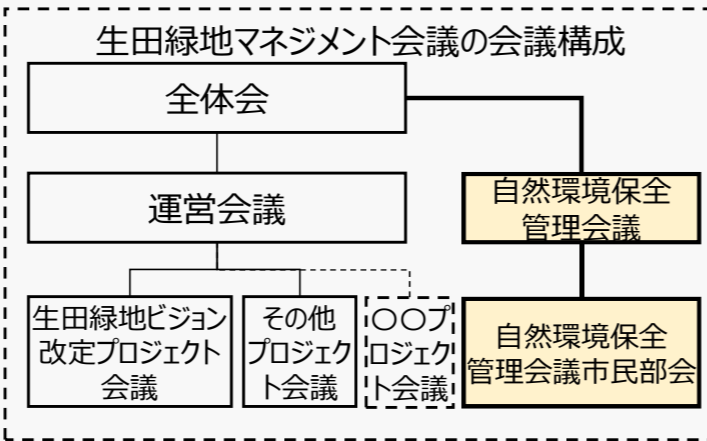


1 概要

生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議は、**生田緑地の自然環境の保全管理等のあり方に関する必要な事項について、協議、調整、提言及び承認を行うことができる役割**を担っています。  
**会議に参加できる会員は、生田緑地の自然の保全と利用にかかわる活動又はこれに関する調査・研究等を行っている正会員のうちから希望するもの及び「行政・指定管理者等」となっています。**

【現在の参加団体】

- 特定非営利活動法人かわさき自然調査団
- 生田緑地の雑木林を育てる会
- 生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会
- 国土館大学 文学部 地理学教室 磯谷研究室
- 倉本+応植研
- 川崎市青少年科学館
- 建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所
- 生田緑地共同事業体



【活動状況】

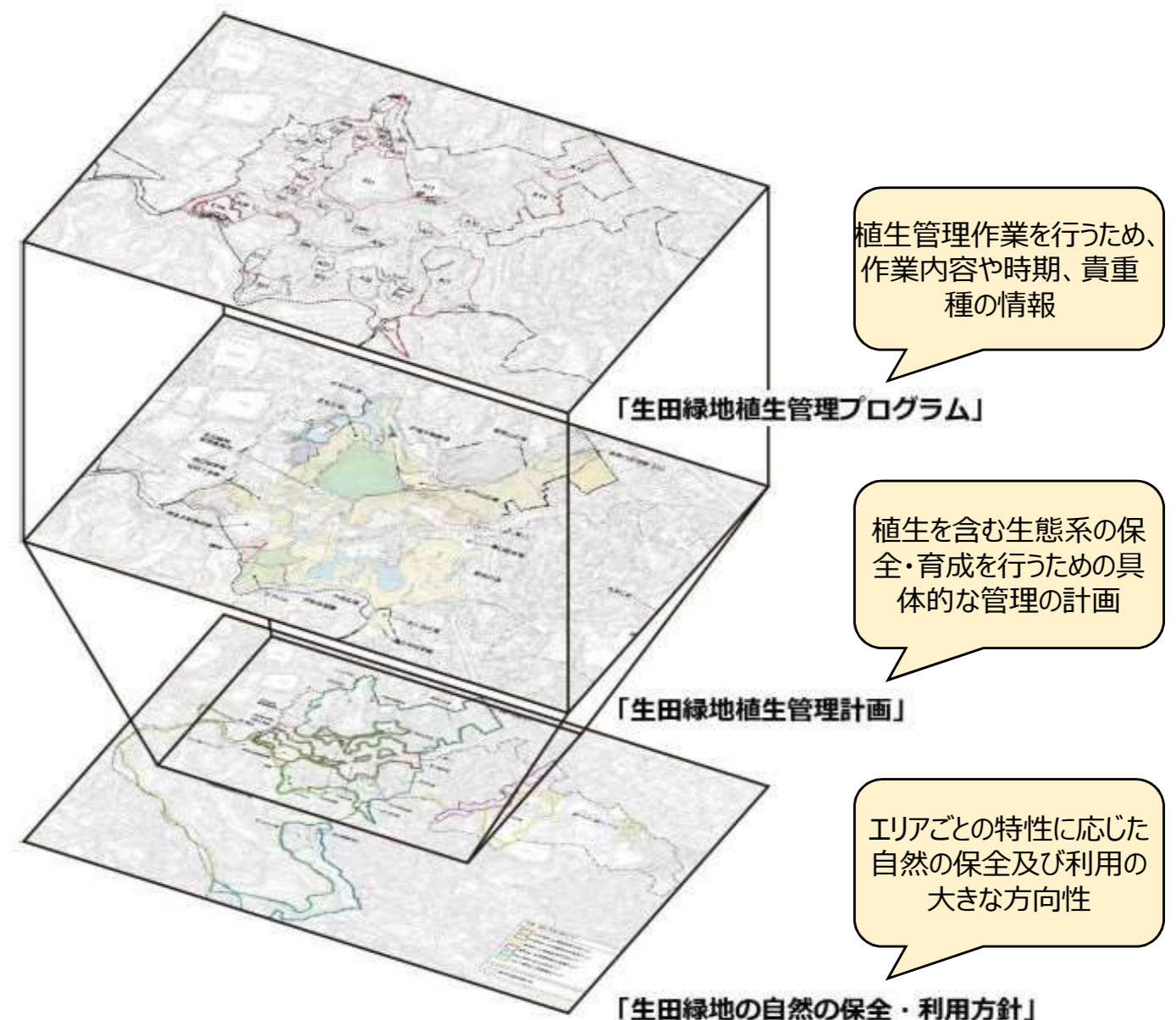
名称	生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議	生田緑地マネジメント会議自然環境保全管理会議市民部会(里山倶楽部)の活動状況
イメージ		
概要	生田緑地の自然環境の保全管理等のあり方について、植生管理計画の策定・検討を行うための会議体。	里山倶楽部は、自然会議の下、どなたでもご参加いただける里山保全活動。1年を通して雑木林の生きもの達に出会える他、春夏はササ刈り・外来種除草やアズマネザサ刈り、秋冬は雑木林更新(大径木の伐採)を行っている。事務局は特定非営利活動法人かわさき自然調査団が担っている。
活動状況	2022年度 6回	2022年度 26回
議題・活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナラ枯れ対応進捗状況、現地確認</li> <li>ホテルの国のホテルについての報告</li> <li>ナラ枯れ伐採計画について</li> <li>順応的管理に向けた植生管理について</li> <li>植栽ガイドライン(案)の今後の進め方について</li> <li>ナラ枯れに伴う園路の一部封鎖について</li> <li>ナラ枯れ伐採エリアにおける今後の管理について</li> <li>今後の目標植生を考えるための情報共有</li> <li>生田緑地における植生について</li> <li>「目標とする自然」意見交換(自然会議の在り方・構造、市役所内外への働きかけの方法、生田緑地の自然の魅力普及、植生管理計画の課題、自然の利用、)等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生田緑地で保護している生物と環境を観察</li> <li>キクザキイチゲ、フデリンドウ保護のためのアズマネザサ刈り</li> <li>外来種セリバヒエンソウ駆除</li> <li>飯室山南地区のモウソウチク除伐、アズマネザサ刈り</li> <li>外来種セリバヒエンソウ駆除</li> <li>雑木林に侵入したモウソウチク除伐</li> <li>中央広場北雑木林のアズマネザサ刈り</li> <li>萌芽更新地区のアズマネザサ刈りなど</li> <li>芝生広場上雑木林のアズマネザサ刈りなど</li> <li>ハンノキ林東地区の伐採更新(大径木伐採)</li> </ul>

2 生田緑地における植生管理活動に係る計画について

生田緑地の植生管理については、エリアごとの特性に応じた自然の保全及び利用の大きな方向性を定めた「生田緑地の自然の保全・利用方針」(平成25(2013)年8月)、植生を含む生態系の保全・育成を行うための具体的な管理を定めた、「生田緑地植生管理計画」に基づき実施しています。また、計画に基づく管理を行うため、作業内容や時期、貴重種の情報などをまとめた「植生管理プログラム」を定めて活動しています。

なお、「植生管理プログラム」に基づく作業は、取り返しのつく範囲で「やって・みて・考える」順応的管理を基本として行われていますが、**モニタリングや活動のふり返りなどの運用において、活動団体ごとに差異が生じていることが課題**となっています。

植生管理に係る計画概念図



3 保全会議の議題等から顕在化する課題

- ナラ枯れ対応に伴う伐採作業に係る調整、ナラ枯れ対応等を踏まえた植生管理計画の見直し
- 植栽ガイドライン策定に向けた進め方(実効性のあるものにする)
- 自然会議のあり方・構造、市への情報発信のあり方、広く市民に生田緑地の自然の魅力を発信すること、自然の利用の仕方について検討が必要
- 会議に参加できる人が限られているため、生田緑地マネジメント会議の会員においても**自然環境の保全に係る情報を知る機会等が少なくなっている。**